

令和6年度 学校評価 生徒・保護者アンケート結果（12月実施）について

1 学校評価について

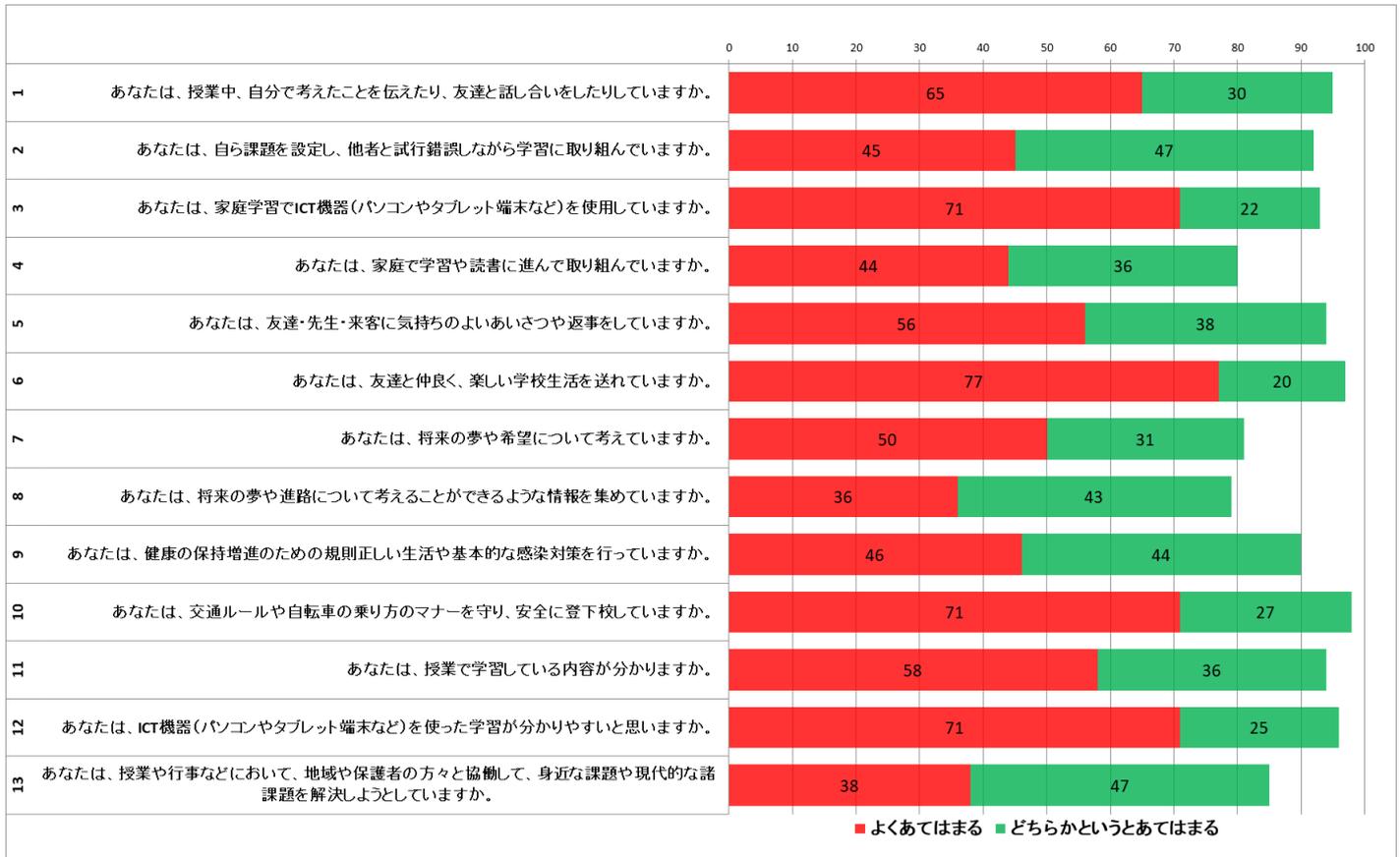
本校では、次のように学校評価を実施しています。

- (1) 生徒・保護者を対象とするアンケート調査を行う。
- (2) アンケート集計結果や自由記述の内容を基に、教職員による自己評価を行う。
- (3) 学校関係者評価や自己評価の分析から明らかになった課題を基に、改善に向けた活動を行う。

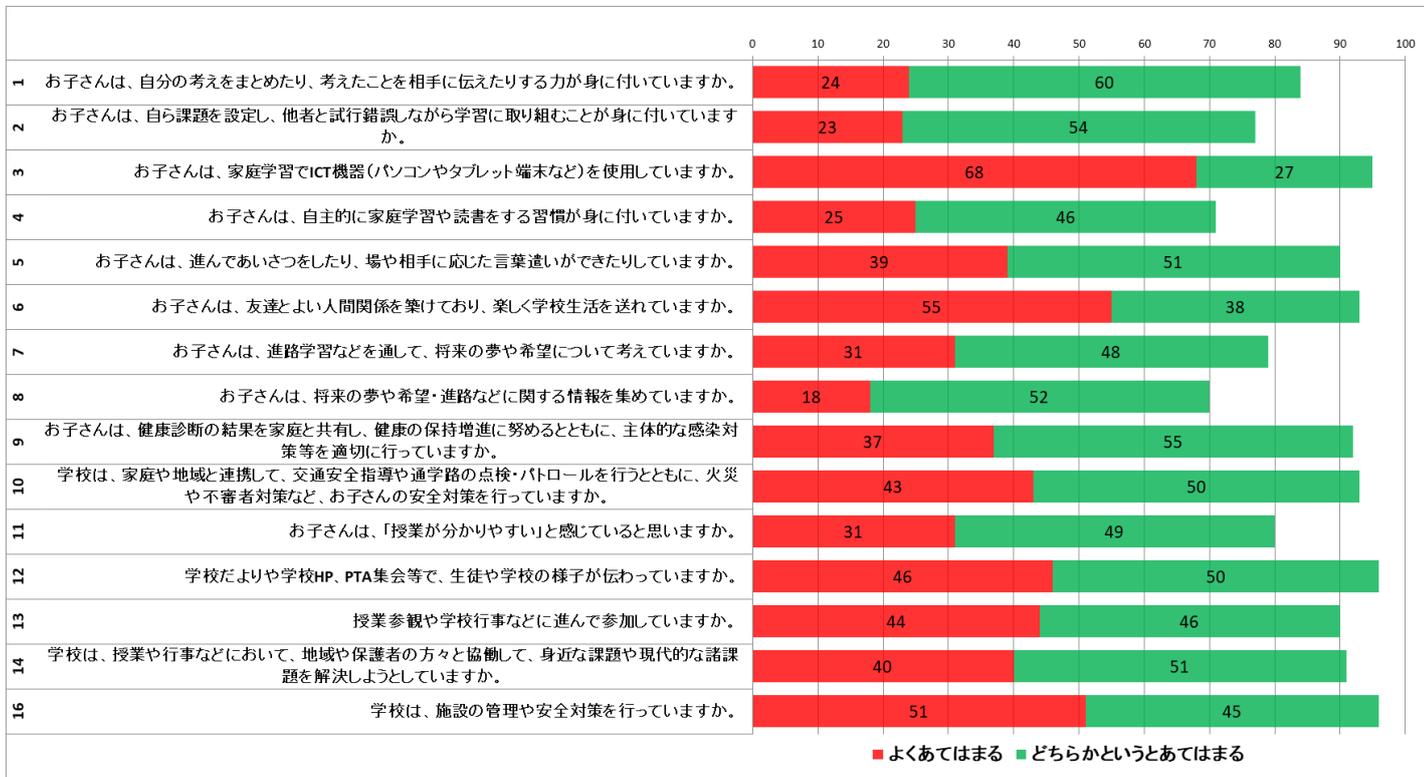
2 資料の見方

- (1) グラフの資料は、アンケートの回答の「よくあてはまる」・「どちらかというにあてはまる」・「どちらかというにあてはまらない」・「まったくあてはまらない」「わからない」のうち、「よくあてはまる」・「どちらかというにあてはまる」の合計の割合をまとめたものです。
- (2) 「よくあてはまる」・「どちらかというにあてはまる」の合計割合の変容が見られた項目について、＜生徒＞と＜保護者＞に分け、第1回からの変化や改善に向けての方針、ご協力をお願いなどについてまとめています。

令和6年度第2回学校評価アンケート<生徒> 12月実施



令和6年度第2回学校評価アンケート<保護者> 12月実施



「よくあてはまる」・「どちらかというにあてはまる」の合計割合の変容が見られた項目

(第1回→第2回)

<生徒>

質問番号8「あなたは、将来の夢や進路について考えることができるような情報を集めていますか。」 64%

→79%

<保護者>

質問番号8「お子さんは、将来の夢や希望・進路などに関する情報を集めていますか。」 51%→70%

→前回に比べ、生徒の意識が15ポイント、保護者の認識が19ポイント向上しました。これらは、生徒が将来について主体的に考える機会を通じて得られた成果です。3年生は受験期を迎え、三者面談を通じて進路や将来についてじっくり考える時間を持ちました。この中で、自分の目標を達成するために必要な道筋が明確になり、情報収集の重要性に気付く生徒が増えています。2年生は、1年次に学んだ「職業調べ」を振り返り、現在の興味や適性検査を基に職業選択について考えました。その中で、職業や進学先をどのように決めていくのかについて疑問をもち、これを解決するために、保護者に「どのように進路を決めたか」や「今知りたいこと」についてインタビューを行う活動に取り組みました。1年生は、3学期に予定している「職業教室」で各分野の専門家から直接話を聞き、将来の夢や進路などに関する情報を集める予定です。また、「未来創造科」において、「自己の生き方」を見つめる学習を行ったり、未来の創造をテーマに課題解決を目指して学習を行ったりしていることが全ての生徒に影響を与えたと考えます。お子さまが自分自身を理解し、将来を主体的に選択できるよう、引き続き情報提供を行い、PTA集会や三者(二者)面談などを通じて、保護者の皆さまにも適切な情報をお伝えします。キャリア教育の推進にご協力いただきますよう、よろしくお願いたします。

<生徒>

質問番号8「あなたは、授業や行事などにおいて、地域や保護者の方々と協働して、身近な課題や現代的な諸課題を解決しようとしていますか。」 64%→85%

→前回に比べ、生徒の意識が21ポイント向上しました。これは、未来創造科を通して「現代的な諸課題を探究し、夢や希望あふれる未来を創造する生徒」の育成を目指し、1年間を通して探究的な学習を進めてきた成果です。各教科等で学んだことを未来創造科や社会生活に応用しようとする力が向上しました。また、生徒の主体的な学びへの意識が高まり、「自己の生き方」を踏まえた探究を推進させ、生徒同士の対話や意思決定を通じて、エージェンシーの発揮が見られます。さらに、継続的に探究に対しての指導・助言を学校評議員、PTA役員や附中サポートスタッフのアドバイザーの方々からいただき、様々な視点から探究に対しての示唆を得られることで、より深い探究的な学びが実現しています。引き続きご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。

<保護者>

質問番号4「お子さんは、自主的に家庭学習や読書をする習慣が身に付いていますか。」 64%→71%

→前回に比べ、保護者の認識が7ポイント向上しました。これらは、「多様な学びの日」や情報委員会の取組が生徒の自主的に家庭学習や読書に取り組む姿勢を促していると考えています。具体的には、多様な学びの日の計画にスタディサプリ、モノグサ等を活用し、多くの生徒が授業内容を基にした予習や復習問題に継続的に取り組むようになった生徒も見受けられます。また、自ら計画を立てて学習に励む姿勢も育まれ、自己管理能力の向上に繋がっています。さらに、情報委員会が中学生の興味・関心に合わせた内容の本や、手軽に読めるマンガやライトノベルを紹介し、紹介された本を実際に手に取る生徒が増加し、読書の幅が広がる様子も見られています。ご家庭におかれましては、引き続き、話題となっている本と一緒に読んだり、定期的に本を読む時間を設けたりするなど読書の習慣付けを図り、今後も読書に対する興味や関心を引き出すような働きかけにご協力をお願いします。